

科目名	開講時期	必修・選択	科目区分	単位（時間）	科目責任者
臨床基礎検査学	1年次	必修	講義	1単位（30時間）	小林 浩二
授 業 概 要					
<p>臨床基礎検査学は、その名の通り臨床検査の基礎となる重要な検査である。臨床基礎検査は一般検査とも呼ばれ、各施設において一般的に行われている検査であるため、臨床現場に対応できる確実な知識をつける必要がある。具体的には、検体採取法、保存法、検査法、病態との関連の一連の流れを通して体系的に学び、病態解析に対応できる知識を身に付ける。検査分野の中でも検査依頼頻度の高い尿検査、便潜血検査、脳脊髄液検査を重点的に学ぶ。</p>					
到 達 目 標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床検査技師の職責について理解できる。</li> <li>・検体採取及びその取り扱いについて理解できる。</li> <li>・尿検査項目の基準値を列記できる。</li> <li>・尿検査上の偽陽性反応及び偽陰性反応について理解できる。</li> <li>・一般検査項目の臨床的意義（疾病との関連性）について理解できる。</li> <li>・尿沈渣において標本作製について理解できる。</li> <li>・尿沈渣標本の鑑別をすることが出来る。</li> <li>・糞便を用いた検査（潜血、脂肪、抗原）について理解できる。</li> <li>・脳脊髄液の一般的性状を理解できる。</li> <li>・脳脊髄液の生化学検査、細胞数算定について理解できる。</li> <li>・その他、臨床基礎検査（一般検査）で行われる検査について理解できる。</li> </ul>					
回	学 習 内 容				担当教員
1	一般検査総論：検体、取り扱い、保存、他				小林 浩二
2	尿一般的性状－1：尿の生成、尿量、色調				
3	尿一般的性状－2：混濁、比重、浸透圧				
4	尿化学的検査－1：糖、蛋白の性状及び検査法				
5	尿化学的検査－2：ケトン体、ビリルビンの性状及び検査法				
6	尿化学的検査－3：ウロビリニン体、潜血の性状及び検査法				
7	尿化学的検査－4：その他尿成分（ポルフィリン体、アルカプトンなど）				
8	尿沈渣－1：標本作製法、鏡検法、染色法				
9	尿沈渣－2：細胞成分、円柱、結晶				
10	糞便検査：潜血検査、脂肪便検査				
11	脳脊髄検査－1：性状、採取法、基準範囲				
12	脳脊髄検査－2：細胞学的検査及び化学的検査				
13	穿刺液検査、精液検査、COPD廃液検査、他				
14	一般検査総合演習1				
15	一般検査総合演習2				
学 習 方 法					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に教科書、事前配布資料を参考に予習しておくとう理解が深まる。</li> <li>・教科書及び講義資料により復習し理解を深めること。</li> <li>・不明点は積極的に調べ、質問すること。</li> </ul>					
評 価 方 法					
<p>定期試験（70%）及び小テスト（30%）により評価する。（小テストは項目ごとに実施する。項目によっては小テストに代わり、課題提出による評価を行う場合がある。また、遅刻や欠席等で小テストを実施しなかった場合は0点とするが、正当な理由がある場合は追試験を実施する。また、再試験は小テストの内容を合わせて出題し、これを評価する。）</p>					
先 修 科 目					
教科書、参考書					
<p>[教科書] 一般検査技術教本（監修：一般社団法人日本臨床衛生検査技師会 出版：丸善出版）</p> <p>[参考書] 尿沈渣検査法2010（著者：尿沈渣検査法編集委員会 出版：（社）日本臨床衛生検査技師会）</p>					